

第1分科会

自ら考え行動する生徒を育てるために学校図書館ができることとは

安来市立広瀬中学校 発表者 司書教諭 高井真理 学校司書 小林順子



広瀬中学校の学校教育目標は「ふるさとを愛し、人間性ゆたかにたくましく生きる生徒の育成」である。その達成のために学校図書館教育の面からはどう迫るかという発想からスタートし、「豊かな心を育てる読書指導」と「学ぶ力を育てる情報活用指導」に取り組んでいる。読書指導では、全校一斉朝読書やブックトーク、ストーリーテリングに加え、より多くの本に出会う機会を設ける「特別貸出」や公共

図書館との連携、生徒および教職員が読書に関する情報交換を行う場の設定を行っている。情報活用指導では図書館の利用指導や各種施設の利用、各教科等における図書館の活用の工夫、計画的な「学び方」の指導（情報やメディアの種類とその特性、情報の収集・分析・評価、まとめ方・発表の仕方、著作権・情報モラル等）などを行っている。そして、これらの活動を支えるための環境整備（配架や標示、レイアウト等の工夫）、資料整備（計画的な図書購入やファイル資料収集、資料リスト作成等）、協働体制整備（司書教諭・学校司書・ボランティア・生徒会）、指導計画作成、情報発信などに努めている。

点から線へ ～学校図書館がつなぐ教科・学年～

松江市立東出雲中学校 発表者 司書教諭 藤田和子 学校司書 実重和美



東出雲中学校では、松江市合併（H23.8.1）前の東出雲町教育委員会の取組の中で学校図書館活用教育の実践を継続的に積み上げてきている。そして、これまでの実践を通して、生徒に情報活用能力を身に付けさせるためには計画的・体系的に各教科等で連携を図りながら指導する必要があることを確認した。そこで、現在は昨年度までの流れを継承しつつ、より学習過程を明確にし、各教科

等で連携して情報リテラシーを育成する取組を重点的に進めている。これまで複数の教科等で別個に行われていたレポートや新聞を作る学習活動を「形式を知る」「情報を収集する」「情報を整理し、文章に表す」などの学習過程にそって整理し、各教科等の指導計画に位置づけて、司書教諭がコーディネーター役として関わりながら一貫した指導を行うようにしている。そのことで、各教科等で指導方法が共有化され、短時間でより重点化した指導ができるようになり、指導の効果も高まった。こうして、個々の教員が「点」として行っていた情報活用教育が教科内の教員同士に広がって「線」となり、さらに教科や学年を越えた「面」の指導へ広がっている。

分科会の終わりには、県外の参加者から学校司書配置事業や学校司書の授業への関わり方、学校図書館教育における小中一貫教育のあり方について質問が行われ、有意義に研修を終えることができた。

第2分科会

学校図書館の活性化をめざして

奥出雲町立横田中学校 発表者 司書教諭 矢田由利子 学校司書 足立佳世



横田中学校では平成21年度より学校司書が配置され「人のいる図書館」となり、学校図書館パワーアップ事業を受け、書架の配置換え等の図書館の環境整備により、生徒が来やすく明るい図書館になった。また、子ども読書活動推進事業モデル指定校として、「環境作り（館内展示、テーマ展示、図書日より、コーナー作り等）」「委員会活動（読書イベント、読書マラソン等）」「親子DE読書（PTAとの連携）」「授業での活用」「町のネット

トワークによる支援」に取り組んだ。その結果、生徒がよく図書館に来館するようになり、貸し出し冊数も増え、読書に親しむ生徒が確実に増えた。また、学校間、公共図書館間の図書の相互貸借により、授業で使用する図書の種類や冊数が増え、調べ学習に役立っている。今後の課題としては、さらに読書に親しませること、授業での活用を増やしていくことがあげられ、今後の取組への熱意も感じられる発表だった。

参加者からは司書教諭と学校司書が協力して行った環境整備やコーナー展示の具体的な内容についての質問が出され、図書館の環境を整えることは、生徒の来館を促す抜群の効果があるという話題になった。

気軽に利用でき、生徒の力を育てる学校図書館へ

邑南町立石見中学校 発表者 司書教諭 遠藤由紀 学校司書 大隅裕子



石見中学校では、学校図書館を「(1)人がくる図書館 (2)使える(気軽に利用できる)図書館 (3)ひろがる・つながる図書館」にしたいと考え、全教職員で共通理解を図りながら、読書に親しみ自分なりの考えをもって発信できる生徒の育成をめざして取組を進めてきた。学校図書館を活用した授業が積極的に展開できるように、付箋による年間計画を職員室に掲示して随時追加、変更をすることで教科間のつながり

を意識し、お互いに情報交換をしながら実践を重ねている。司書教諭と学校司書を中心に全教職員で協力して学校図書館教育に関わってきたことで、生徒の読書活動が充実し、授業でも生徒が複数の資料に当たることも可能になった。教科の連携を意識した図書館活用教育を推進することは生徒の情報を活用する力を伸ばすことに通じると考え、引き続き取組を進めるとともに、これからは小学校との連携によるスキル学習にも力を入れていくとのことだった。

司書教諭と学校司書の協働が生んだ成果が分かりやすく伝えられた発表であり、授業での活用が増え、生徒が情報活用能力を身に付けていくことが、生徒の学力向上につながっていくのだということを多くの参加者が実感された様子だった。

第3分科会

「確かな一歩」を支える授業づくり ～担任・司書教諭・学校司書の連携～
松江市立揖屋小学校 発表者 司書教諭 樋野義之



揖屋小学校では、全学級で週1回、学校図書館を使用した授業を行っており、その授業をとおして読書指導と情報活用能力を育成をめざした図書館活用教育を展開している。授業は、担任と司書教諭、学校司書の三者が協働で作上げる。各々が専門性を生かして打ち合わせや教材研究を行い、役割分担しながら授業実践に取り組んでいる。授業を支えるものとして、町内全小中学校の共通指導内容を示した「指導スキル

体系表」、情報活用スキルを示した「揖屋小年間指導計画」がある。成果として、子ども達に学びを楽しむ姿や互いに高め合う姿が見られるようになった。

分科会の終わりに、参加者から「授業の中で、どのように読書指導をしているのか」と質問があった。「目的をもった読書指導をすること、授業の最後に感想交流などの話し合いの場を設定することなどに留意している」という回答に、読書指導と情報活用能力の育成を両輪として取り組むことの大切さがより明らかになった。

行きたい！読みたい！調べたい！ 子どもたちのねがいをかなえる学校図書館
出雲市立荘原小学校 発表者 司書教諭 作野晴美 学校司書 三原弓枝



荘原小学校では、常勤の学校司書が配置され「いつでも迎えてくれる人がいる」学校図書館が実現した。それに伴い「読書センター」「学習・情報センター」として機能する学校図書館の環境整備も行った。成果として、休み時間や放課後に利用する子どもの数が増え、読書や調べ学習のアドバイスを求めてくる子どもの姿も多く見られるようになった。また、校内研究に学校図書館を位置づけ、

国語科を中心に授業実践を積み上げてきた。学習と並行して同じ作者や同じジャンルの作品を読むことにより、教材文の読み取りに生かすことができた。調べ学習では「図鑑・百科事典の使い方」「年鑑の使い方」をわかりやすく示した「学び方カード」を作成し、「情報カード」と併せて図書館に常置して利用できるようにしている。これにより、情報を集め、広げ、深める学習活動へと発展させることができた。参加者の皆さんは、「学び方カード」や「情報カード」について特に興味深く聞いておられる様子だった。

第4分科会

久手小学校図書館の足跡～環境と人と活動と～

大田市立久手小学校 発表者 教諭 勝部高良



平成20年からの蔵書管理の電算化にあわせて、環境整備、読書活動、図書館活用授業について、全校体制で取り組んだ。平成21年には学校図書館パワーアップ事業を受け、読書センターと学習センターの機能を持つ図書館にするため、新たに配置された学校司書と協力して畳スペース・ソファを増設し、廊下に展示コーナーを作った。また、蔵書の日焼け防止のためUVフィルムを貼ったり、新聞閲覧台や面だし書架を手作りしたりした。学校司書の配置により、近隣の学校・公共図書館から資料を借りるなども含めて、授業で使う図書資料の準備がすすみ、図書館を活用した授業が活性化した。平成22年には司書教諭を発令し、読書活動の充実と図書館を活用した授業づくりに重点を置いて取り組んだ。これらの取組の結果、貸し出し数は約5倍に増え、児童・職員はもちろん、たくさんの人が図書館に来館する機会が増えた。

今後、学校図書館の郷土資料センターとして機能を充実させることや、図書館活用教育と情報教育の融合をめざし、メディア専門職としての司書教諭の役割について整理する必要があることなどについて提案された。

本との出会い 図書館ギャラリー

益田市立高津小学校 発表者 司書教諭 三口由香 学校司書 安野洋子

平成20年度からの学校司書の配置、平成22年度の図書館パワーアップ事業の指定を契機に図書館のレイアウト等を変更し、平成23年度の司書教諭サポート事業により、学校司書と司書教諭の協働が進んだ。「本はともだち」をテーマとし、読書の楽しさを味わい、進んで読書しようとする態度を身につけること、図書館の資料を学習に生かすことをめざし取り組んでいる。司書教諭は



授業者と図書館活用とのコーディネート、また、学校司書は、図書館の整備や資料収集、来館する児童とのかかわりを主に行っている。学校司書と司書教諭が協働しての取組の1つが「たかつ あいあい ギャラリー」である。図書館を文化的なものの発信地として、子どもたちの知的好奇心や思いを刺激する場所にするため、月ごとにテーマを決めて様々な展示や書籍の紹介をしている。テーマは学校行事や学習内容との関連で決定し、地域の方からの作品なども展示している。例えば、理科・生活科・図工科の学習にあわせ、アゲハチョウの幼虫を実際に飼育しながら、関連する書籍などを展示したり、国語科の学習で4年生が作成した「ことわざブック」の展示にあわせて「ことわざ展」を開催したりしている。貸し出し数や授業での利用も増え、昼休みには本の内容をメモする児童の姿が見られるようになるなど、身近な図書館として学習や学校生活の中に図書館が位置づいてきている。

*詳細 高津小 HP http://www.iwami.or.jp/takatu_s/index.html

第5分科会

みんなで創りみんなで楽しみ活用する『わくわく図書館』～教職員と学校司書の協働から～

大田市立五十猛小学校 教諭 浄西弘美 学校司書 田中あゆみ



五十猛小学校では、平成21年度に学校図書館パワーアップ事業を受けたことを契機に、教職員と学校司書とが協働して「風の吹く図書館・子どもの動きが見える図書館」に大改造してきた。そして、「読書貯金通帳」「個人カルテ」「読書郵便」「お話スタンプラリー」「カエル司書クイズ」「演劇、家読んでなあに」等様々な取組を行い、読書傾向の偏りも少なくしつつ、読書量を増やしている。市のブックスタートや保育園との交流の取組も読書量向上に効果をあげている。また、毎週水曜日に「図書館トレーニング」の時間を設定したことや、授業での学習過程を4つに分け工夫していくことで、情報活用能力の育成にも取り組んでいる。

分科会の終わりには、大分県から参加された方の「読書の苦手な子どもへの支援は。」という質問に対して「全校一斉読書タイムやペア読書をし読書をする雰囲気作りを行うと同時に、学校司書さんからしてもらった『この子は歴史が好きだからこういう本を薦めたら』というアドバイスがとても有効でした。」と、学校司書との協働の成果からの返答が出された。また、大田市の方から「市としてネットワークのシステム化を行い、読書活動の充実をさらに進めたい。」という積極的な提案もあった。

読書に親しみ生き生きと学ぶ児童の育成を目指して

～6年間で確かな情報リテラシーを育むために～

海士町立福井小学校 司書教諭 福山弘子 学校司書 磯谷奈緒子



福井小学校では研究1年目の平成22年度は「わくわくブックタイム」「チャレンジ図書リスト」「読み聞かせ」「G o G oブックタイム」「個人の本袋購入」等様々な取組により読書に親しむ素地作りを行い、2年目の本年度は授業づくりとして3つの柱立てを行い、情報リテラシーの育成に取り組んできている。そして、司書教諭は主として図書館機能を活用した授業づくりの指導に関して、学校司書は主として学習

の目的・各児童の実態にあった資料提供、機能整備に関して行い、協力して学校全体で取り組んでいる。図書館クイズの実施や活用教育の年間計画表の作成はその一例である。

分科会の終わりには、岡山県から参加された方からの「どんな基準で購入図書を選んでいるのか」という質問に対して「チャレンジ図書や教科書に掲載されている作家の本を念頭に、楽しい本や一度読んでも上学年になってまた読みたいと思える本を基準に選書している」との回答であった。また「学習課題の立て方について何か良い方法は」という質問には「子ども一人一人との対話を重視し、どんなことに対して課題意識が強いのかを判断し、担任、司書教諭、学校司書が相談し適切なアドバイスを送ることにしている」との回答をされた。充実した意見交換が行われた。

第6分科会

学校図書館を活用した探究型授業～論理のことばの遣い手をめざして～

島根県立松江南高等学校 発表者 学校司書専門員 漆谷 成子

松江南高校では「主体的に生涯にわたって学ぶための言語の力を身につけさせる。自己



や社会について深い理解と健全な判断力を養わせる。豊かな心を持ち、個人の尊厳を重んじる姿勢を養わせる。」ことを重点目標として図書館活動を行っている。また、問題を焦点化し、批判的に読み解き、発表・評価を通して気づき、共感し受容するというサイクルを重視した探究型授業を展開しており、その具体的事例として総合的な学習の時間に行った人権についての学習、保健でのレポート学習の様子が紹介された。授

業後の生徒の自己評価から、情報処理能力や論理的思考力を養うための取組として有意義だったこと、生徒が自ら学ぶ楽しさを実感したこと、次の課題の自覚へとつながったことがうかがえた。また、探究型授業の実践は新たな授業技術の習得の場であり、研修の機会となっていると教員側からも評価されている。最後に、学校図書館は生徒の主体的な学習意欲を育む場であるとまとめられた。

「生徒の学びを支える学校図書館 ～感性のことばを豊かに～」

島根県立出雲商業高等学校 発表者 教諭 高橋 恭子



出雲商業高校では「感じることを表現し伝えることで言葉と向き合わせる」「学び方指導が言葉を豊かにしていくための工夫となる」ことを研究テーマとして図書館活用教育を行っている。特に「感性のことば」をキーワードとして、NIEの活動ともからめながら、図書館担当者が教科、領域を越えたつながりを作ることを試み、その具体的事例として、詩の創作と映像表現（国語科、芸術科、商業科、図書館の連携）、キャリア教育（進路指導部、学年部、図書館の連携）が紹介

された。このような連携が可能になっているのは、教科主任、教務部長などからなる図書館活用教育推進委員会が立ち上がり全校体制が作られていること、昨年度各教科、分掌での学び方指導実践を付箋に書き出し表にまとめることで全体像の把握ができたこと、授業互見のシステムにより授業研究の機会に恵まれているためであるとのことだった。最後に、授業の成果物として生徒の創作した詩と映像が流され、その出来映えに感嘆の声が上がった。

両校の発表の後、参加者から「生徒の論理的な思考力を養うために具体的にどのような支援をしているのか」「複数の教科担当者を結びつけるのにどのような場を利用しているのか」という質問があり、授業の中での具体的な支援や図書館担当者の声掛けの様子を聞いた。